

地元から起る 新しい波

青少年教化担当委員長

中谷康韻

皆さまの「地元」とは、どこでしょうか？ 生まれ育った場所や長年住み暮らす場所など、それぞれに思い入れのある土地があり、そこは「心のふるさと」のような場所ではないでしょうか。

この記事を読んでいただいている皆さまそれぞれに、自分の地元の好きところ、自慢できるところなどが必ずあるのではないのでしょうか。地元に着る持

つということは、その地域の活力の源であると同時に、自身のアイデンティティーの確立に寄与することにとなると考えられています。

昨年初頭から日本でも広まった新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活は一変し、多少なりとも今までの生活スタイルからの変化を求められました。そのなかで、都市や地方の分け隔てなく、それぞれの地域



を見直し、

魅力を再発見する機会
になってい
ます。

第34代全

人が想いを寄せ合うお寺で新しいつながりを

日青の活動テーマである「新しいつながり」。これを皆さまの地元にてはじめて新しいつながりを考えてみると、お寺という存在もその一つではないかと考えます。多くのお寺は、その地元深く根付き歴史を見守ってきた生き証人であり、信仰という人と人が想いを寄せ合う場でもあります。

インターネットなどを通じてその距離の遠さを感じさせない状況を作ることが、必ずできます。またその逆で、直接接することができる状況を作ることもへの価値の高まりも感じるのが現状です。

本年は日蓮聖人降誕800年の記念すべき年。お題目の信仰がより花開く年にしなければなりません。率先して行動に移し、コロナ禍の状況を逆手に取って行動していくために、私も広島の地から新しい波を起こしていきたいと思えます。

お寺を古くからある当たり前の存在に思っただけなく、お寺と〇〇の新しいつながりやその意味を考え、今まで見落としていた事柄に目を向けることで、〇〇に入る無限の可能性を見つけるのに絶好のチャンスが今来ているだと私は感じています。

それが青年僧の役割なのだ信じて。

※ ※

現在では、例えば離が離れていても、

■中谷康韻 昭和59年生まれ。相愛大学卒業。広島県日青会会長。広島県圓隆寺住職